

# 報 告 書

平成 2 7 年度

\* 事 業 報 告

\* 財 務 諸 表

一般財団法人 千代田健康開発事業団

〒101-0043

東京都千代田区神田富山町 9 番地 千代田第 3 手塚ビル

TEL 03-5296-3351 FAX 03-5296-3352

ホームページ <http://www.chiyoda-kenko.jp>

# 事業報告

平成27年4月 1日から  
平成28年3月31日まで

事業概況	2
I 社会厚生事業	3
1. 平成27年度「社会厚生事業助成金制度」の運営	3
2. 「健康教室」への協賛	4
3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業	4
II 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」	5
1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み	5
2. 入居者満足度の維持・向上	6
3. 人材育成の取組み	9
4. 安定経営に向けての新規入居者の確保	10
5. 介護サービスの品質及び満足度向上	13
III 診療所運営事業：「財団附属診療所ラビドールクリニック」	16
1. 診療所収支の改善	16
2. 医療と介護のチームケア能力の向上	16
3. クリニック職員の知識、技能のレベルアップ	17
4. 入居者検診実施状況	17
5. その他	17
IV 理事会、評議員会に関する事項	18

# 平成27年度 事業報告

〔平成27年4月 1日から  
平成28年3月31日まで〕

## 事業概況

平成25年4月1日より一般財団法人の認可を受け、社会厚生事業・診療所運営事業を計画通りに活動した結果、「平成26年度公益目的支出計画実施報告書」を平成27年6月12日内閣府へ提出し、平成27年8月20日公益目的支出計画の実施完了確認書を受理した。

これにより公益目的財産額83,057千円を2年間で完了でき、内閣府の管理下から独立したが厚生労働省の指導の下、当事業団の目的である「国民の健康を開発するための各種活動を通じて、国民の保健と福祉に寄与する」活動を展開した。

社会厚生事業の保健助成活動は、創設時の目的主旨に立ち返り高齢者や成人に対する医療・介護活動に助成し、表彰方法も経費節減と安全面を考え、改善を図った。

健康教室の協賛は、地元との連携強化を主題とし、夷隅・鴨川地区を中心に寄与した。

また、千葉県社会福祉協議会、千葉県介護保険関係団体協議会等に参画し、県行政への協力を実施した。

高齢者業界は、川崎幸町の有料老人ホームで発生した痛ましい事件によって、有料老人ホームに対するマイナスイメージが強くなり、更には大手企業の新規参入やM&Aによる業界再編の動きが激化した1年であった。

このように厳しい市場環境の中、有料老人ホーム運営事業は、リゾートホームという特性を前面に打ち出し他ホームとの差別化を図り、本部・ホーム・診療所が一体となった総合力を評価していただき、今期も多くの新規ご入居者をお迎えすることができた。

ご入居者の生活面においても健常者（約75%）、要支援・要介護者（約25%）に対して、思いやりの心ときめ細やかなサポートによってご本人及びご家族様からも感謝の言葉を頂戴できた。

診療所運営事業では、常勤医師2名体制が3年目となり定着した。地元御宿町において高齢者医療の最前線を担うと共に、特定健診や予防接種への協力及び各種委員会での委員としての活動にも貢献した。一方で「ラビドール御宿」に対しては365日24時間の医療サポートを維持しつつ、増加傾向にある看取りケアの充実に努力した。

# I 社会厚生事業

## 1. 平成27年度「社会厚生事業助成金制度」の運営

昭和29年に創設した社会厚生事業助成金制度であるが、昨年と同様に「保健活動助成」のみを実施した。なお、助成制度発足以来の助成団体数及び助成金累計額は下記の通りである。

項目	平成27年度		発足以来の累計額	
	団体数	助成金額(万円)	団体数	助成金額(万円)
医学研究助成	—	—	1,667	128,745
保健活動助成	26	520	784	15,980
合計	26	520	2,451	144,725

### (1) 第19回「保健活動助成」の実施

#### ①応募内容

- (A) 応募期間：平成27年6月初旬～8月末日
- (B) 活動テーマ：地域保健活動の推進において、高齢者や成人に対する医療・介護に関し顕著な実績を上げている保健師（個人またはグループ）の活動
- (C) 応募要件：都道府県・市・区の保健所長または市町村所管部門長の推薦を受けること
- (D) 助成団体数：35団体以内
- (E) 助成金額：1団体につき20万円
- (F) 後援：厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会

#### ②チヨダ地域保健推進賞の状況

本年度も全国各地から応募を頂戴し、理事会にて選考の結果26名（グループ）が受賞され、創設以来、延べ784名（グループ）の方々が受賞している。

活動内容は、「健康づくりの元気体操」や「介護予防のお出かけサロンの開設」、「みんなで作る地域包括ケアシステム」など保健師が地元での問題を認識し、改善するために保健活動の枠を超え、専門部署を巻き込み取り組んでいる事例が多かった。

ご後援を賜っている厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会をはじめ、全国各地の保健所長、都道府県、市区町村の保健福祉関係部門長の皆様のご支援、ご協力に対し深く感謝を申し上げます。

#### ③表彰の実施

表彰は、経費節減と安全面を考慮し、平成27年12月に表彰状を入賞者（グループ）に送付し、報奨金（20万円）を入賞者（グループ）の指定銀行へ振込みした。

#### ④保健活動成果報告集の発行

平成28年3月に平成27年度（第19回）「保健活動成果報告集」を発行し関係者に配布した。

## 2. 「健康教室」への協賛

今年度は、地元夷隅地域を中心に4ヶ所で協賛、支援し、実施状況は下記の通りである。

### (1) 実施状況

#### ①「第30回全日本学生ライフセービング選手権大会」へ協賛

9月26日(土)、27日(日)に御宿中央海岸で全日本学生ライフセービング選手権大会が開催され、全国から約640名の大学生が参加した。主催している日本ライフセービング協会の教育は、溺れた人を救う活動のみならず、溺れない安心の環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理を含めた総合的に安全を提供するという活動が、当事業団の目的と相通じるところから協力を決定した。大会当日は、波が高く開催も危うい状態であったが、学生達の熱意が通じ競技も盛り上がりすばらしい大会であった。

#### ②「第8回いすみ健康マラソン大会(増田明美杯)」へ協賛

12月5日(土)、6日(日)にいすみ健康マラソン大会が開催され、協賛企業として開会式に出席し、当財団の職員も10kmに出場している。この大会は全国ランニング大会100撰に選ばれ、約5,200名のランナーが参加している。当財団の職員及び家族が第1回大会から参加しており、主催者である増田明美さんの明るい雰囲気が増えている要因のひとつと思う。

#### ③「認知症サポート医講演会」へ協賛

2月18日(木)に御宿町公民館で当財団附属診療所(ラビドールクリニック)の深山所長による認知症の講演会が御宿町主催で開催された(千葉県認知症地域医療支援事業)。認知症サポート医の深山所長より認知症の症状、治療・薬、予防などの講話が行われ、御宿町民・介護事業者約80名が参加した。当財団より協賛品として参加者全員に「LAVIE D'OR」及び「エビアミーゴ」入りの認知症サポータージャケットを配布した。

#### ④「オルカ鴨川FC」へ協賛

介護付有料老人ホームラビドール御宿の協力医療機関である亀田総合病院が協力している女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」に協賛した。本クラブは、南房総初めての本格的な女子サッカーチームとして平成26年2月に発足した。元なでしこジャパンの北本綾子氏を監督に迎え、チーム創設2年目にしてチャレンジリーグ(男子でいう「J3」)に昇格した。地域の子供たちに夢と希望を与える存在となり、有為な人材の育成に努める活動に賛同した。

## 3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業

財団附属診療所(ラビドールクリニック)で行っている地域住民に対する健康相談、健診の実施を支援した。平成27年度実施した健康相談、健診協力は下記のとおりであり、

- (1) 御宿町特定健診・高齢者健診への協力
  - (2) 御宿町インフルエンザ予防接種
  - (3) 御宿町肺炎球菌ワクチン接種
  - (4) 御宿町教育支援委員会委員
  - (5) 御宿町国民健康保険委員会委員
  - (6) 夷隅郡市介護認定審査会委員
  - (7) 千葉県認知症サポート医(千葉県認知症地域医療支援事業での講演活動を含む)
  - (8) 医師会活動
- 等を通じて、地域社会に貢献した。

## II 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」

平成12年度に施行以来、介護保険制度は老後の安心を支える仕組みとして定着したが、総費用は急速に増大し、「制度の持続可能性」が懸念され、第6期に当たる平成27年度には9年ぶりに大幅な減額改定が行われた。また、有料老人ホームを始めとしてサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、シニア向け分譲マンション等、右肩あがりに増加し続ける高齢者施設の状況下において平成27年度を迎えた。

この厳しい現況の中、介護保険制度では新たに新設された「処遇改善加算」の増収申請を行う事により、前年度収益に対し微減に止める事が出来た。一方、新規入居者の迎え入れ対策としてリゾート型ホームの環境及び医療・介護への取組みを新聞や雑誌等に掲載する事により、12組17名を迎え入れる事が出来た。これも26年目を迎えたホームならではの経験を活かし、職員全員が自己研鑽に励み、ご入居者満足を第一義に捉えた結果である。

また、平成27年12月から義務付けられた「ストレスチェック」を含む、労働災害や健康障害を防ぐ事を目的とした「安全衛生委員会」の立ち上げ準備に入った。

ご入居者へ対しては、生活の潤いとしてのイベントの継続や住環境の整備、食の安全に努めると共にアスレチックジム等での介護予防を実施。また、居室並びにケアセンターにおける介護サポートを継続しながらラビドールクリニックの支援を受けケアセンター内での看取りを行い、振り返りと御見送りをさせていただいた。併せて、ご入居者を偲ぶ会を発足させ、看取りに対する意識が高まった。

平成27年度においても次に挙げる具体的な取組みを実施し、順調に運営することが出来た。

### 1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み

#### (1) 長期シミュレーションの策定継続

- ・DMや雑誌、新聞への掲載を継続すると共に「千葉県医師会報」への新規掲載や広告物に入居金額を示す等の新たな取組みにおいて、12組17名を迎え入れることができた。一方、退去者は13組17名であったが、今後もシニアニーズに合わせた募集活動を精力的に実施し、経営安定に努めていく。
- ・築25年を超える建物・設備に対して長期修繕計画に基づき、次の(2)に掲げる項目に対処した。
- ・単年度予算のチェック&フォローを毎月の経営会議で行い、予算収束に努め、予算外支出においては、決裁書をもって対応した。

#### (2) 建物・インフラ整備

- ・長期修繕計画及び改修指導等により次の建物・機器の更新を行った。

ア. プール棟内装改修工事	イ. プールボイラー及びろ過機、循環ポンプ更新工事
ウ. ケアセンター電話交換機更新工事	エ. D棟漏水補修工事（南面・西面・屋上）
オ. セブン銀行ATM設置工事	カ. ロビー階トイレ改修工事
キ. ケアセンター介助浴槽更新工事	ク. 空調機更新工事（診療所・厨房）
ケ. ラビドール墓苑増設（第6基）	
コ. 消防設備更新工事（プール排煙装置改修工事、非常用発電装置の蓄電池交換、非常照明器具交換、消火器更新、誘導灯バッテリー交換）	

- ・竣工より25年を超え使用したプールのボイラー及びろ過機の更新に伴うプール閉鎖期間を利用し、プールの内装（天井・プールサイド・プール槽・男女更衣室）のリニューアルを行った。

### (3) 適正人員と人事制度の見直し

- ・要介護認定者数に対する介護職員の適正配置に努めた。
- ・「育児・介護休業法」に伴う育児休業取得者2名が復帰したが、新たに1名が育時休暇を取得した。
- ・平成28年度より発足する「安全衛生委員会」の立ち上げ準備として、各担当者の選任と事前打ち合わせを行った。

### (4) 介護保険制度対応

- ・平成27年度の介護保険制度改正に伴い給付額の大幅な減額が予測されていたが、各種加算給付の新たな申請を行い、介護保険収入は微減に止める事が出来た。
- ・従来からの介護職員処遇改善加算の申請・報告手続きも法令対応に基づき千葉県に行った。

### (5) リスクマネジメント

各リスクに対し、管理の強化に努めた。

- ・「データ流出のリスク」対策として、平成27年度から施行された「マイナンバー制度」に対し、各部署内におけるマイナンバーの取扱いに関する勉強会を行った。
- ・「食品の衛生のリスク」対策として、衛生管理基準の遵守、定期社内検査、食材の安全仕入管理（トレーサビリティ）、自己管理の強化（食堂担当業者の罹病時の報告徹底）を継続して、食中毒事故防止の徹底を図った。
- ・「感染症リスク」対策として、蔓延防止策を盛り込んだ感染予防マニュアルの徹底と、診療所との共同委員会の活動を実施した。また、インフルエンザ、ノロウイルスに対しての基礎知識を各部ミーティング内で周知すると共に、食堂担当業者とも共同でダイニングルームでの嘔吐を想定した実地研修を行った。
- ・「景品表示法」における対策として、(公社)全国有料老人ホーム協会等の指導要領の遵守とパンフレット等作成時においては同協会によるリーガルチェックを受審し、表示物・作成物の適正を維持した。
- ・「自然災害へのリスク」対策として、ご入居者参加の火災時避難訓練を従前の年2回から年3回へと増加させ、火災発生時における意識向上を図った。併せて、職員向け訓練として屋内消火栓を使用した放水訓練を盛り込み実施した。
- ・「介護事故へのリスク」対策として、安全管理体制を強化すると共にインシデント（ヒヤリハット）の報告厳守と再発防止に努めた。
- ・「安全装置・機器のリスク」対策として、緊急通報装置の各居室への定期立入検査を行い、安全性の維持に努めた。
- ・「交通事故への取組」としては、朝礼時及び各部ミーティング時に交通安全（事故予防）の意識付けを行い、「セーフティドライバーズちば2015」に参加し達成賞を頂いた。

## 2. 入居者満足度の維持・向上

### (1) 生活サポートの充実

- ・親しみのある雰囲気を維持し、フロント職員・介護職員その他全職員が「笑顔と挨拶・マナー」を励行し、接遇の向上に努めた。
- ・ご入居者からの諸申し出に対しては、迅速な対応と適宜の確認を行い、未処理が無いように努めた。
- ・千葉銀行CD機撤去に伴い、新たにセブン銀行と利用契約を取り交わしATMを設置しサービス向上を図った。

- ・売店商品においてはアイスの自動販売機撤去に伴い、売店での販売を開始しサービス維持と売上微増に繋げた。
- ・「分かり易い情報源」としての『掲示板と手書きのA型看板』により、情報が滞らない対応とイラストを加え、ご入居者への関心を高めた。
- ・アスレチックジムにおいては、介護予防を含めた身体機能維持を掲示板等でPRし利用者数増加に努めた。
- ・身元引受人の安心感向上のため、ラビドール誌、暑中見舞い、年賀状等の送付に加え、適宜定期連絡を実施した。
- ・各種同好会に対しては、ポスター作成のお手伝いや諸準備などのサポートを行った。

## (2) イベント企画

- ・春夏秋冬の4大イベント（春の花祭り、納涼祭、文化祭、クリスマス会）を軸に、クラシックコンサートやタンゴコンサート、小唄・漫談などのラビドールホールを活用したイベントに加え、バスツアーやお買い物ツアーによる外部へのイベントも定期的で開催した。
- ・大きなイベントの他、「サロン遊々」や「珈琲館アンシャンテ」を始め、お茶会、映画観賞会等、様々な趣向に合わせたイベントを実施した。また、昨年度新規イベントとして行った「夕餉とカラオケを楽しむ会」も定期イベントとして定着し、毎回13～15名様前後の参加を頂戴した。
- ・大きなイベント、小さなイベントを通し、「楽しみと引きこもり防止」に努めた。



【実施イベント一覧】

開催月	イベント名	開催月	イベント名
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お花見ツアー（19名）</li> <li>・庭園お花見会（45名）</li> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会（15名）</li> <li>・クラシックコンサート（47名+3名）</li> <li>・パークゴルフ会（10名）</li> <li>・端午の節句飾り</li> </ul>	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームコンサート（55名+2名）</li> <li>・ゴルフ大会（8名）</li> <li>・パークゴルフ会（7名）</li> <li>・寿会（8名）</li> <li>・文化祭飾り付け</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァイオリンとヴァイラのコンサート（46名+28名）</li> <li>・野点（51名）</li> <li>・パークゴルフ会（9名）</li> <li>・体力測定（38名）</li> <li>・菖蒲湯</li> <li>・母の日（カーネーション）</li> </ul>	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭発表の部（58名+9名）</li> <li>・芸術観賞会 小唄と漫談（40名+2名）</li> <li>・秋のパークゴルフ大会（12名）</li> <li>・体力測定（57名）</li> <li>・警察署からの出張講習（19名）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーラスクラブ交流会（33名+5名）</li> <li>・花巡りバスツアー（9名）</li> <li>・寿会（13名）</li> <li>・パークゴルフ会（6名）</li> <li>・ジャズコンサート（25名+6名）</li> <li>・半日お買い物ツアー（21名）</li> <li>・父の日（黄色いバラ）</li> <li>・七夕飾り</li> </ul>	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉バスツアー（17名）</li> <li>・クリスマス忘年会（118名+5名）</li> <li>・クリスマスクラシックコンサート（58名+5名）</li> <li>・餅つき会（87名+5名）</li> <li>・暮れの買い物ツアー（23名）</li> <li>・クリスマス、イルミネーション飾り</li> <li>・ゆず湯</li> <li>・正月飾り</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会（13名）</li> <li>・納涼祭（99名+5名）</li> </ul>	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初詣成田山ツアー（17名）</li> <li>・新春お茶会（52名）</li> <li>・夕餉とカラオケを楽しむ会（15名）</li> <li>・節分飾り</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねぶた飾り</li> </ul>	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節分豆配布</li> <li>・雛飾り</li> <li>・ロビー花飾り</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半日お買い物ツアー（21名）</li> <li>・タンゴコンサート（63名+11名）</li> <li>・十五夜飾り</li> </ul>	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春のバスツアー（12名）</li> <li>・蓬餅と甘酒のご賞味会（80名+2名）</li> <li>・スプリングコンサート（51名+5名）</li> <li>・LAVIE☆FESTA（148名）</li> <li>・半日お買い物ツアー（10名）</li> </ul>

※（●●名+●●名）＝（入居者+（ご家族+近隣居住者））

### (3) 食事満足度の向上

- ・喫食数の状況は、朝食、夕食は微増し昼食は微減した。

	平成27年度		平成26年度		増減	
	総食数	1日平均	総食数	1日平均	総食数	1日平均
朝食	39,674食	108食	37,991食	104食	1,683食増	4食増
昼食	40,941食	112食	41,366食	114食	425食減	2食減
夕食	47,639食	130食	46,673食	128食	966食増	2食増

※平成27年度は閏年。

- ・予約無しでも食事が出る固定食（そば・うどん・カレーライス）の継続提供を行った。
- ・刺身、ステーキなどの特別価格帯でのパーティー料理の提供とその維持に努め、また、サラダやお浸し等、定食にもう1品欲しい方への『プラスoneメニュー（小鉢トッピング）』の継続提供を行った。
- ・味覚を考慮した誤嚥防止食、高齢者向け機能性食品の提供を行った。
- ・清潔感のある快適な食事提供空間の維持とメニューに合った食器の選定を行った。また、テーブルクロスのカleaningも定期的に行った。

### (4) 住環境の満足度向上

- ・定期的な敷地内巡回により、庭園においては倒木予防と日当たり確保の為高木の剪定を集中的に行い、館内においては日常清掃を中心に住環境の維持・整備に努めた。

### (5) 元気作りの継続

- ・アスレチックジムの利用者増を図るべく、配布物やラビドル誌への掲載を行った。今後も体力維持・健康維持のサポートとして利用者増に努めて行く。
- ・体力を可視化するため、体力測定を年2回（内、1回は骨密度測定を組み入れ）実施した。

#### 【アスレチックジム・プール年度別利用者数】

区分	平成27年度	平成26年度	増減
アスレチックジム	7,736名	7,415名	321名
プール	933名	1,021名	△88名

※アスレチックジム：全体で321名の増加

増加要因は、今までご利用していたご入居者に加え、新しいご入居者の参加によってジム利用者の増加となった。

※プール：全体で88名の減少

減少要因は、1月上旬から3月下旬まで行われたプールの改修工事によるものであり、一日当たりの利用者では1名増加している。

## 3. 人材育成の取組み

### (1) OJTによる働きがいのある職場づくりの構築

- ・平成27年度は、生活サービス部総務担当1名の新卒者を採用した。他の先輩職員同様、入社1ヶ月間はアスレチックジム・フロントなど、ラビドル全体の業務研修を行った。特に会計においては、本部総務部長指導の下、集中勉強会を行い理解を深めた。

- ・介護職員の育成としては、ケースカンファレンスを中心とした社内研修会で知識、技術の向上を図ると共に、安心できる職場環境の構築によりロイヤリティーの向上に努めた。  
また、コミュニケーション手法や身体ケアを反復訓練して、基本的な介護技術の完全修得とスキルアップを図った。
- ・家族的介護の視点に立った「寄り添うケア・心のこもったケア」について実践指導を行い、安心感のある介護サービスの提供に努めた。
- ・介護サービス部においてはレクリエーション担当やインシデント担当など、各担当制により個々の目標達成と責任を明確化して業務達成意識の向上を図った。

## (2) OFF-JTによるスキルアップ

- ・マナー教育を目的とした外部講師を招聘し、勤続3年以下の職員へはマナー研修、4年以上の職員へはコミュニケーションスキルアップ研修を実施した。
- ・(公社)全国有料老人ホーム協会主催「東日本事例発表研修会」にも継続参加・発表し、高い評価を得た。

発表テーマ：【個別サービスの追求と独自性】

- ・その他次の研修会へ参加し、知識・技術の向上に努めた。

No.	研修名	No.	研修名
1	マイナンバー制度研修会	9	介護施設における衛生管理
2	千葉県感染症研修会	10	全国有料老人ホーム協会 基礎研修
3	千葉連 介護相談対応研修	11	高齢者住まい虐待防止研修
4	全国有料老人ホーム協会 リーダー研修	12	亀田総合病院 エンドオブ・ライフ・ケア研修
5	国際福祉機器展	13	防火管理者講習会
6	介護保険制度と人財育成ポイント	14	高齢者虐待防止研修
7	介護保険集団講習会	15	人事給与研修
8	人事労働管理研修		

## (3) 提案制度の推進

- ・平成27年度においては、各部より81件の応募があり8名が表彰された。

一等：「食事介助対象者の食事提供時間を早めて介助」落ち着いた空間での食事提供
--

## 4. 安定経営に向けての新規入居者の確保

### (1) 自立シニアに選ばれるホームづくりを推進

- ・「全てはご入居者のために」を基本姿勢としたラビドール・マインドを各職員が理解する事により、生活の安全、介護への安心等ご入居者満足度に努め、ラビドール御宿の総合力を向上させる取組みにより、自立シニアが求める「生涯ケアシステムの有料老人ホーム」として社会的評価向上に努めた。
- ・新規入居者へ対して定住1ヶ月を目安にした入居后面談を行い、その内容を生活サービス部・介護サービス部とも共有を図る事により、引っ越し後の生活定着支援を実施した。

## (2) ラビドール御宿の社会的評価・信頼度向上への取組み

- ・Webによる最新の重要事項説明書の更新や第三者評価の公表により積極的な情報開示を実施し、ホーム運営の透明性、健全性を通して企業信頼度の向上に努めた。
- ・千葉県連絡協議会幹事ホームとして、「有料老人ホームの現職施設長が本音を語るPART II」と題して千葉県セミナーを開催し、社会的貢献活動に取り組んだ。
- ・高齢者福祉の観点で企業顧客向けセミナー講演「超高齢社会の実状と多様化する高齢者のすまいについて」（二見専務理事講師）を行い、社会的貢献活動に取り組んだ。

## (3) 新規入居促進の取組み

- ・介護保険制度改正内容や高齢者住宅、有料老人ホームの動向、団塊世代シニアの思考傾向を把握し入居促進計画を策定、実施、結果の検証を踏まえたPDCAサイクルの徹底により順調な新規入居を迎え入れられた。
- ・最新の写真や情報を盛り込み「詳細パンフレット」の全面リニューアルを行った。
- ・(公社)全国有料老人ホーム協会会員、協会セミナー参加者、登録者を対象としたDM配信により、各種見学会への見学動員数が増加した。
- ・新聞、雑誌等においてラビドール御宿の入居者層に適した媒体を厳選すると共に「ラビドール御宿の特徴」「入居一時金等の費用」「見学会実施案内」等の訴求ポイントを明確表示し、新規顧客の開拓に繋がった。
- ・新たな媒体用ツールとしてラビドール御宿の環境の特徴を捉えた「居室写真」の撮影を実施し、今後の活用を計画した。
- ・入居相談東京分室開設（8月3日開設）に伴い、雑誌やDM並びにホームページ等に公表し、更なる入居相談と情報収集に努めた。
- ・既存セミナーの出展内容の制度向上に努め、新規顧客拡充に繋がった。
- ・入居検討者、登録者の視点を捉えた個人的入居相談により信頼関係を構築し、入居待機登録者の拡充に繋がった。
- ・入居登録待機者のプロセス管理を徹底し、空室発生時の迅速且つ適切な入居アプローチを実施し新規入居を促進した。

### 【見学状況】

年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
見学者数	158組235名	108組163名	90組150名

### 【セミナー出展状況】

(公社)全国有料老人協会主催セミナー	10月2日、3月12日
首都圏有料老人ホーム主催セミナー	11月12日
2015有料老人ホーム入居相談会 in ちば	4月28日
みずほ証券千葉支店顧客向けセミナー講演	2月26日

【新聞・雑誌掲載状況】

日経新聞（夕刊）広告掲載	7月21日、10月28日
朝日新聞（夕刊）広告掲載	3月 1日
婦人画報	10月 1日
ダイヤモンドQ	8月 3日
日経BP	7月17日
メディカル朝日	4月 1日
週刊朝日MOOK「高齢者ホーム2016」	9月29日
タカシマヤ通販誌	2月24日
千葉県医師会報	定期掲載4回／年
学会会報	定期掲載6回／年
協会「輝きニュース」	2回／年

【入居状況】

項目	平成27年度	平成26年度	平成25年度
新規入居者数	12組17名	9組16名	11組15名
退去者数 (内、死亡退去)	13組17名 (11組15名)	7組18名 (5組16名)	12組19名 (12組19名)
年度末入居者数	189室244名	190室244名	188室246名

【企業等見学状況】

実施月	来館企業	来館者数
4月	(株)日立ビルシステム監査室	3名
5月	(株)ビルケアビジネス	3名
7月	(株)日立製作所中国支社公共情報システム営業部	1名
8月	(株)日立博愛ヒューマンサポート	1名
	(一社) 日本セカンドライフ協会	1名
9月	伊豆ヘルスケアマンション(株)	2名
11月	ひたちなか総合病院	3名
	(株)興建	3名
	亀田メディカルセンター	4名
	CITC Medical&Health Group co.ltd (中国企業)	5名
	みずほ銀行中国推進室	3名
	(株)東急イーライフデザイン	1名
3月	東急不動産(株)	3名
	(株)ユニマツト リタイアメント・コミュニティ	1名
	(株)日立システムズ福祉システム営業本部	2名
平成27年度 合計11組36名		

## 5. 介護サービスの品質及び満足度向上

### (1) 介護予防諸施策の充実

介護予防の取り組みにおいては、指標となる体力測定を、生活サービス部アスレチックジム職員、委託業者グリーンハウスの協力を得て、春と秋の2回対象者に実施した。この体力測定をきっかけに、自立者・要支援者向けに実施している「元気づくり体操」の参加者が増え、体力・バランス力向上・転倒予防・怪我の軽減に繋がる取り組みが強化された。

ケアセンターでは、「みんなの体操」を中心に新たな介護予防として、コグニサイズ（身体を動かしながら脳を鍛える認知症予防エクササイズ）を継続した。更に、認知症専門棟のご入居者には午後のリハビリとして、下肢筋力を強化するリハビリを夕食前に実施し、食欲の増進と体力維持の取り組みを継続した。

咀嚼力・嚥下力の維持・向上のための生活リハビリとしては、全てのフロアで食事前に必ず嚥下機能訓練を実施し、健康を意識したケアセンターの介護環境を維持出来た。

認知症予防においては、今年度も「元気づくり体操」「みんなの体操」「ヨガ体操」「音楽療法」「サロン遊々」等、ご入居者の嗜好に合わせたプログラムを提供し、部門全体で認知症予防の取り組みを実行した。特に、平成24年度から継続している「サロン遊々」では、当初のテーマであった笑いと楽しみの活動（ゲーム・クイズ）に加え、平成27年度からは脳トレーニング・ワーキングメモリの予防プログラムを毎回取り入れ、ご参加の皆様から効果があるとのお言葉を頂戴している。

また、リハビリについては必要度並びにご入居者からの要望もあり平成27年8月より協力医療機関亀田総合病院へ打診し、毎月2回から毎週（土曜日）開催へと実施回数を増やした。導入当初は自立者の受診希望が多く、一部のご入居者に隔週でご利用いただく調整を実施したが、年度末には全ての希望者に適切な頻度でリハビリの提供ができる状況になった。

#### 【介護予防運動・アクティビティ実施状況】

実施月	介護予防運動		アクティビティ	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	24回	296名	44回	169名
5月	26回	301名	45回	242名
6月	24回	284名	34回	186名
7月	25回	321名	33回	133名
8月	25回	323名	29回	140名
9月	25回	305名	31回	130名
10月	29回	345名	45回	258名
11月	24回	318名	59回	337名
12月	26回	290名	43回	230名
1月	11回	124名	15回	95名
2月	23回	279名	48回	214名
3月	27回	367名	33回	136名
合計	289回	3,553名	459回	2,270名

## (2) 暮らしやすい生活・介護サービスの充実

暮らしやすい生活の取り組みとしては、ご入居者のニーズに耳を傾け、日常生活に必要な「ラビドール式フットケア」「お買い物代行を含めた各種代行サービス」「申請手続き支援」等の生活支援プログラムを実施した。

アクティビティの取り組みについて居室グループでは「外出お買い物プログラム」、ケアセンターグループは「食を楽しむ活動」を中心に実施した。また、介護サービス部の中心イベントである「秋祭り」「クリスマス会」「珈琲館アンシャンテ」は多くの参加者を得る事ができ、ご入居者・ご家族・職員との交流も活性化された。

その他にも、ホーム主催のイベントであるコンサートや納涼祭、クリスマス忘年会、春の花祭りにおいて、介護サービスを利用されているご入居者が参加しやすい工夫として、車椅子での送迎やくつろげる環境としての指定席を設け、日々の生活に喜びと変化を感じていただけるようチーム全体で支援する事が出来た。

アンシャンテの積極的な短期利用の導入としては、急な体調不良や入院・治療後の生活リハビリ等、一般居室でのご生活を取り戻す（居室生活自立復帰）の場としてケアセンター（アンシャンテ）を活用し、積極的な生活リハビリと日常生活支援を実施した。その成果として、男性2名、女性3名、計5名の方がケアセンターを中・短期利用され一般居室での自立生活復帰を達成されている。

### 【フットケア実績（平成20年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年	18名	20名	23名	22名	27名	19名	23名	27名	15名	23名	19名	20名	256名
平成26年	23名	19名	19名	19名	26名	26名	22名	28名	18名	16名	11名	24名	251名
平成25年	22名	22名	18名	26名	17名	14名	19名	20名	16名	18名	20名	20名	232名

### 【珈琲館実績（平成20年6月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年	24名	18名	16名	22名	22名	25名	23名	25名	25名	26名	24名	18名	268名
平成26年	15名	15名	16名	中止	16名	17名	20名	20名	24名	中止	24名	31名	198名
平成25年	17名	15名	16名	18名	11名	20名	15名	15名	14名	17名	20名	16名	194名

### 【サロン遊々実績（平成24年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年	8名	12名	9名	9名	8名	11名	11名	17名	10名	14名	中止	10名	119名
平成26年	10名	7名	8名	7名	7名	9名	10名	8名	10名	12名	中止	6名	94名
平成25年	9名	9名	8名	9名	10名	11名	11名	9名	11名	11名	13名	10名	121名

### (3) 安心・安全・プライバシーの遵守

今年度も、長期不在者や非定住者、自立者への介護情報サポートとして、「第6回介護サービス説明会」を開催した。テーマは「緊急時の対応」「認知症予防」「リハビリテーション」についてで、ラビドール御宿の生活の中で体調不良になった場合、直ぐにでも受けられる介護サービスと職員の支援体制をご理解いただく機会となった。

また、介護サービス部内のカンファレンスでは、インシデント・アクシデント報告に基づく問題分析や、看取りの振り返り、SNSの取り扱いルール、安全運転講習等の研修を実施し、より実践的なコンプライアンス遵守の在り方を学習出来た。

#### 【インシデント・アクシデント件数】

区分	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度
インシデント	36件	30件	34件	22件
アクシデント	7件	8件	18件	7件
合計	43件	38件	52件	29件
(内転倒件数)	(30件)	(25件)	(32件)	(18件)

### (4) 医療との連携強化

介護サービス部では、ラビドールクリニックと連携・支援を受けながら、ケアセンターにおいて9名の看取りに携わる事が出来た。介護・医療保険制度の改正やご入居者・ご家族のご意見を頂戴し、一人ひとりのご希望を汲み取りながら看取りを住み慣れたケアセンターでご提供できた。また、この看取りについて更なる技術と心をもって対応出来るよう社内外の研修に参加し、対応力向上に努めた。

施設の「感染症予防」対策としては、感染の発生予防・拡大防止を組織的に取り組む体制をつくり、今年度も感染拡大防止に向け組織を機能させた。

今年度は職員にインフルエンザの感染があり、また、ケアセンターでは1月末から2月中旬まで風邪症状がご入居者間で広がる傾向にあったが、各種イベントの活動を制限する取り組みも実行し、重症化する方も無く短期間で収束させる事が出来た。

インフルエンザに感染した職員には、治療薬開始から5日間の出勤停止（休息）をルール化する事で、館内への持ち込みを完全にシャットアウトし、ご入居者への感染を防ぐ事が出来た。

### (5) 介護の人材育成

例年と同様に、社会福祉関連における国家資格取得サポートを実施した。

介護福祉士1名、介護支援専門員1名の合格者を出す事が出来た。

更に喀痰吸引等研修にケアセンター介護職員から1名を参加させ、吸引対応ができる介護職員を育成する事が出来た。



### Ⅲ 診療所運営事業：「財団附属診療所 ラビドールクリニック」

常勤医師2名体制も3年目となり、休診日の減少や外来診療を医師2名で担当するシステム（火曜日・水曜日）も定着してきている。

地域医療においては地元である御宿町（高齢化率約45%）で高齢者医療の最前線を担うと共に、御宿町から依頼された各種委員会等での活動を実施することが出来た。一方、「ラビドール御宿」に対しては365日24時間の医療サポートを維持しつつ、喫緊の課題である看取りケアの増加（最近3年間では亡くなられた方の約8割がラビドールでの看取り）には、ホームの介護サービス部との連携を密にして対応した。

一方で、医師の増員は、看護師・薬剤師・医療事務の業務量の増加となり、マンパワーの調整が必要となってきた。昨年度来の看護師不足にはようやく充足の兆しを見ることが出来、入院診療の回復及びケアセンターへの訪問看護の再開をすることが可能となった。

今年度においても、財団附属診療所としてコンプライアンスを守り、良質な医療の提供に努め、地域住民及びラビドール御宿入居者の健康維持に貢献すべく努力した。

#### 1. 診療所収支の改善

入院患者数は看護師不足の解消にて昨年度より約3倍増加している。

外来診療では常勤医師2名体制となった平成25年度以降、患者数及び「外来管理加算」「特定疾患療養管理料」「薬剤情報提供料」等は堅調に推移してきている。

ケアセンターでの看取りケア増加等により、在宅医療及び介護保険収入は増加した。

ジェネリック医薬品の活用増加（使用量で約35%）により、患者負担の軽減を図りつつ薬剤納入コストを押さえた。

上記により、診療所全体としての収支の安定化を図った。

【診療所患者数等】

年度	外来			入院		
	延患者数	診療日数	一日平均	延患者数	診療日数	一日平均
平成27年度	8,795人	238日	36.95人	244人	366日	0.67人
平成26年度	8,904人	241日	36.95人	88人	365日	0.24人
平成25年度	8,817人	229日	38.50人	285人	365日	0.78人
平成24年度	8,435人	209日	40.36人	120人	365日	0.33人

- ・ケアセンターへの訪問診療（月平均）52回（昨年度48回）
- ・入居者の看取りケア11名対応（昨年度12名、一昨年度13名）
- ・御宿町特定健康診査協力3回
- ・インフルエンザワクチン予防接種520名（昨年度515名）
- ・肺炎球菌ワクチン予防接種73名（昨年度85名）
- ・介護保険主治医意見書83通（昨年度77通）
- ・介護保険居宅療養管理指導（月平均）23名（昨年度22名）

#### 2. 医療と介護のチームケア能力の向上

(1) ケアセンターへの医療サポートを実施した。

- ・ケアセンター看護業務に対してホーム看護チームと協力して対応した。

- ・膀胱留置カテーテル、胃瘻栄養、経鼻胃管栄養等に協力を行った。
  - ・褥瘡予防では、ハイリスク者に個別対応（体圧測定、適切な除圧器具の選択など）を行い、治療も共同で行った。
  - ・ホームとの「感染対策共同委員会」を年3回実施し、インフルエンザ・ノロウイルス等につき医療的見地に立った施設内感染防止に努めた。
  - ・「ケアセンターでの看取りケア」に対して、ホームと連携して入居者ひとり一人の個別なニーズに丁寧な対応を実施した。入居者の高齢化が更に進む中、11名様をクリニックとホーム・ケアセンターにて看取らせていただいた（今年度は癌の方が多く、緩和ケア的対応も実施した）。
- (2) 毎月1回のホームでのサービス担当者会議に医師・看護師が全回出席し、要介護認定者等に対するの共通認識の向上に努めた。
- 「ケアセンターでのエンゼルケア」について認識を深め、マニュアルを作成した。
- (3) 増加する服薬自己管理困難者（要介護認定者等、月平均71名（昨年度72名、一昨年度67名））に対しては、ホームと連携し薬剤師を中心にサポートを行った。

### 3. クリニック職員の知識、技能のレベルアップ

- (1) 「ELNEC-J（エンドオブライフケア）」研修に看護師1名が参加（昨年度と合わせて4名が受講）。千葉県主催の「認知症サポート医フォローアップ研修」に年2回所長が参加。
- 「パーソンセンタードケア」など3回の講習に6名の看護師が参加した。
- (2) 「安全管理研修会」を年2回実施した。「インシデント・アクシデント報告」を分析し、対策を図った。（「インシデント・アクシデント報告」年間8件、重大な事故はゼロ。）
- (3) 「院内感染対策研修会」を年2回実施した。
- (4) 「日本医師会認定産業医」講習に所長が参加し、全50時間終了した（現在申請中）。

### 4. 入居者検診実施状況

入居者に対する検診を次の通り行った。

(1) 腹部超音波検診	5月～ 6月	109名受診（昨年度97名受診）
(2) 総合健診	9月～12月	132名受診（昨年度129名受診） 要介護者等に、介護サポート付き健診を継続した。
(3) 胃X線検診	3月～ 5月	昨年度同様に今年度も寒冷期を避けて実施中 （昨年度19名受診）

※新規入居者の受診が増加し、受診者数は微増した。検診ハイリスク者は引き続き増加傾向にあり、インシデント・アクシデントの予防に努め、事故ゼロを達成した。

### 5. その他

- (1) 所長が御宿町「認知症サポート医による普及啓発事業」にて講演活動を行った（千葉県認知症地域医療支援事業）。
- (2) 看護師1名が夷隅郡市「介護認定審査会」の委員として通年で活動した。
- (3) 医師1名が「御宿町教育支援委員会」の委員として活動した。
- (4) 所長が今年度より新規に「御宿町国民健康保険委員会」の委員として活動した。
- (5) ホームページでは「外来担当医表」を毎月更新し、予防接種等の案内を適時実施した。

## IV 理事会、評議員会に関する事項

### 平成27年度第1回理事会

- (1) 日時：平成27年5月7日（木）16時～17時
- (2) 場所：(株)日立ビルシステム 本社
- (3) 議題：第1号議案 平成26年度事業報告及び決算の承認に関する件  
第2号議案 平成26年度公益目的支出計画実施報告の承認に関する件  
第3号議案 平成27年度定時評議員会の開催に関する件

### 平成27年度定時評議員会

- (1) 日時：平成27年5月27日（水）10時30分～11時50分
- (2) 場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
- (3) 議題：第1号議案 平成26年度事業報告に関する件  
第2号議案 平成26年度決算報告の承認に関する件  
第3号議案 理事4名の選任に関する件  
第4号議案 監事1名の選任に関する件

### 平成27年度第2回理事会

- (1) 日時：平成27年5月27日（水）12時30分～12時40分
- (2) 場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
- (3) 議題：第1号議案 代表理事、専務理事及び業務執行理事2名の選任に関する件

### 平成27年度第3回理事会

- (1) 日時：平成27年10月8日（水）16時～17時30分
- (2) 場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷
- (3) 議題：第1号議案 平成27年度（第19回）「チョダ地域保健推進賞」選考に関する件  
第2号議案 本部事務所の移転に関する件

### 平成27年度第4回理事会

- (1) 日時：平成28年3月18日（水）16時～17時30分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成28年度事業計画及び収支予算に関する件

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年5月  
一般財団法人 千代田健康開発事業団

# 平成27年度 財務諸表

平成27年4月 1日から  
平成28年3月31日まで

* 貸借対照表	… 21
* 正味財産増減計算書	… 22
* 財務諸表に対する注記	… 26
* 附属明細書	… 30

一般財団法人 千代田健康開発事業団

**貸借対照表**  
平成28年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	235,659,488	265,194,618	△ 29,535,130
未収入金	84,104,739	67,031,910	17,072,829
棚卸資産	4,366,601	4,502,071	△ 135,470
前払費用	6,314,054	6,379,082	△ 65,028
繰延税金資産	7,597,300	6,794,500	802,800
その他	3,608,329	2,720,499	887,830
流動資産 合計	341,650,511	352,622,680	△ 10,972,169
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産運用積立金	0	0	0
基本財産投資有価証券	0	0	0
基本財産 合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産有価証券	1,000,000,000	1,000,000,000	0
建物	18,483,048	19,349,640	△ 866,592
建物付属設備	6,592,431	9,883,704	△ 3,291,273
構築物	18,509,290	19,280,510	△ 771,220
車両運搬具	5,122,750	4,417,216	705,534
什器備品	4,952,130	5	4,952,125
土地	15,400,000	15,400,000	0
役員退職慰労引当資産	500,000	500,000	0
固定資産購入積立資産	184,372,145	184,945,359	△ 573,214
霊園購入積立資産	44,389,033	47,327,589	△ 2,938,556
特定資産 合計	1,298,320,827	1,301,104,023	△ 2,783,196
(3) その他固定資産			
建物	978,166,072	1,030,976,753	△ 52,810,681
建物付属設備	100,139,484	86,633,432	13,506,052
構築物	46,949,815	34,164,511	12,785,304
車両運搬具	1,479,403	2,465,782	△ 986,379
什器備品	64,868,240	64,449,421	418,819
リース資産	34,379,291	45,602,587	△ 11,223,296
土地	822,037,210	819,037,210	3,000,000
電話加入権	2,996,308	3,006,308	△ 10,000
ソフトウェア	25,854,065	34,338,339	△ 8,484,274
敷金	3,660,950	1,586,000	2,074,950
預託金	57,620	57,620	0
投資有価証券	1,174,778,050	912,750,340	262,027,710
電気通信施設利用権	572,069	608,976	△ 36,907
その他固定資産合計	3,255,938,577	3,035,677,279	220,261,298
固定資産 合計	4,554,259,404	4,336,781,302	217,478,102
資産 合計	4,895,909,915	4,689,403,982	206,505,933
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	436,000	15,191,000	△ 14,755,000
未払費用	22,274,210	66,994,265	△ 44,720,055
未払法人税等	134,100	140,000	△ 5,900
未払消費税	2,663,200	1,932,400	730,800
賞与引当金	37,377,500	27,765,000	9,612,500
前受金	17,308,680	17,188,600	120,080
預り金	5,961,940	5,631,194	330,746
仮受金	52,749,267	52,749,267	0
流動負債 合計	138,904,897	187,591,726	△ 48,686,829
2. 固定負債			
入居預り金	1,467,335,500	1,359,950,250	107,385,250
介護費預り金	241,014,002	222,185,929	18,828,073
入居者長期未払金	108,153,981	125,850,496	△ 17,696,515
入居者長期預り金	1,040,514,408	1,084,001,245	△ 43,486,837
介護費長期預り金	120,208,595	119,153,537	1,055,058
リース債務	34,379,291	45,602,587	△ 11,223,296
役員退職慰労引当金	500,000	500,000	0
固定負債 合計	3,012,105,777	2,957,244,044	54,861,733
負債 合計	3,151,010,674	3,144,835,770	6,174,904
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産	1,342,780,460	1,217,426,491	125,353,969
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(1,219,451,209)	(1,217,426,491)	(2,024,718)
2. 一般正味財産	402,118,781	327,141,721	74,977,060
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(78,369,618)	(83,177,532)	4,807,914
正味財産合計	1,744,899,241	1,544,568,212	200,331,029
負債及び正味財産合計	4,895,909,915	4,689,403,982	206,505,933

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	0	0	0
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	26,991,987	21,699,092	5,292,895
特定資産売却益	0	2,041,300	△ 2,041,300
特定資産運用益計	26,991,987	23,740,392	3,251,595
③ 事業収益			
地域住民健診収益	0	100,000	△ 100,000
老人ホーム事業収益			
入居預り金償却益	366,059,587	398,504,930	△ 32,445,343
管理費収益	201,686,760	201,958,920	△ 272,160
食費収益	98,824,541	96,705,681	2,118,860
料飲収益	11,418,196	10,019,368	1,398,828
売店収益	14,646,514	12,718,878	1,927,636
施設負担金収益	16,335,036	16,345,948	△ 10,912
施設利用料収益	1,286,280	1,489,590	△ 203,310
その他収入	0	0	0
老人ホーム事業収益計	710,256,914	737,743,315	△ 27,486,401
医療事業収益			
医療外来収益	78,151,093	78,727,652	△ 576,559
医療入院収益	2,720,553	1,243,711	1,476,842
医療室料収益	985,400	355,000	630,400
介護保険収益	4,555,770	4,219,295	336,475
医療その他収益	1,087,200	2,599,880	△ 1,512,680
医療事業収益計	87,500,016	87,145,538	354,478
介護事業収益			
介護費預り金償却益	53,138,933	53,181,048	△ 42,115
介護保険収益	132,611,620	133,610,249	△ 998,629
介護事業収益計	185,750,553	186,791,297	△ 1,040,744
事業収益計	983,507,483	1,011,780,150	△ 28,272,667
④ 受取寄付金			
受取寄付金振替額	0	0	0
⑤ 雑収益			
受取利息	7,122,160	9,195,174	△ 2,073,014
投資有価証券売却益	0	914,000	△ 914,000
投資有価証券償還益	0	11,200,000	△ 11,200,000
投資有価証券評価益	47,760,610	20,769,340	26,991,270
永代使用料収益	6,748,400	9,344,520	△ 2,596,120
受取地代	1,200,000	1,200,000	0
雑収益	8,070,924	7,108,431	962,493
雑収益計	70,902,094	59,731,465	11,170,629
経常収益計	1,081,401,564	1,095,252,007	△ 13,850,443
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	3,092,604	3,196,800	△ 104,196
給料手当	274,073,760	269,976,527	4,097,233
賞与引当金繰入	35,684,300	27,000,000	8,684,300
法定福利費	45,483,782	44,991,687	492,095
退職年金保険料	6,318,040	6,011,340	306,700
通勤費	5,510,540	5,286,030	224,510
福利厚生費	1,577,034	1,613,352	△ 36,318
被服費	639,614	690,608	△ 50,994
研修費	591,329	343,676	247,653
会議費	406,085	391,008	15,077
旅費交通費	153,544	926,045	△ 772,501
通信運搬費	2,873,604	2,912,903	△ 39,299
什器備品費	2,107,517	1,979,266	128,251
消耗品費	5,827,833	7,093,692	△ 1,265,859
修繕費	36,458,221	64,760,851	△ 28,302,630
印刷費	3,350,548	4,136,830	△ 786,282
図書費	251,609	267,954	△ 16,345
燃料費	11,878,893	15,761,344	△ 3,882,451
電気料	23,107,343	26,187,543	△ 3,080,200
水道料	7,448,809	7,308,559	140,250
保守費	980,640	927,136	53,504
賃借料	38,758,401	38,750,745	7,656
リース料	2,397,706	2,669,028	△ 271,322
業務委託費	189,977,385	186,871,912	3,105,473
清掃費	1,925,871	1,885,721	40,150
保険料	2,290,028	2,150,351	139,677
交際費	397,017	300,387	96,630
諸会費	4,278,600	3,601,300	677,300
租税公課	34,083,200	35,824,400	△ 1,741,200
自動車費	2,700,505	3,402,908	△ 702,403
施設負担金	3,920,508	3,920,508	0
販売費	14,485,890	16,068,342	△ 1,582,452
広告宣伝費	12,265,022	11,934,503	330,519
教養娯楽費	3,109,612	3,519,325	△ 409,713
支払手数料	3,192,194	3,352,204	△ 160,010
売店仕入費	13,106,223	10,797,440	2,308,783
医薬品仕入費	34,856,690	35,065,961	△ 209,271

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
介護負担金	2,681,490	2,969,467	△ 287,977
研究助成費	5,200,000	5,400,000	△ 200,000
応募関係費	0	0	0
選考関係費	0	0	0
贈呈式関係費	0	0	0
成果報告関係費	0	0	0
現地開催費	0	0	0
出張関係費	0	0	0
委託手数料	0	1,700,000	△ 1,700,000
建物減価償却費	60,073,065	60,003,415	69,650
リース資産減価償却費	11,223,296	11,842,476	△ 619,180
建物付属設減価償却費	20,119,155	18,954,236	1,164,919
構築物減価償却費	4,703,163	4,327,201	375,962
車両運搬具減価償却費	2,895,775	4,601,293	△ 1,705,518
什器備品減価償却費	15,530,447	10,595,458	4,934,989
電気通信施設減価償却費	36,907	36,907	0
ソフトウェア減価償却費	8,484,274	5,837,813	2,646,461
雑費	746,551	527,683	218,868
事業費計	961,254,624	978,674,135	△ 17,419,511
②管理費			
役員報酬	6,185,208	6,403,200	△ 217,992
給料手当	10,492,223	11,554,760	△ 1,062,537
賞与引当金繰入	1,693,200	765,000	928,200
役員退職慰労引当金繰入	0	0	0
退職金	436,000	0	436,000
法定福利費	2,253,592	2,641,535	△ 387,943
退職年金保険料	108,000	108,000	0
通勤費	675,907	674,647	1,260
福利厚生費	72,650	60,731	11,919
研修費	0	0	0
会議費	362,930	441,319	△ 78,389
旅費交通費	484,410	308,566	175,844
通信運搬費	937,041	571,674	365,367
消耗品費	99,540	31,708	67,832
修繕費	1,806,840	0	1,806,840
印刷費	245,687	168,683	77,004
図書費	65,649	73,541	△ 7,892
電気料	153,003	0	153,003
水道料	7,941	0	7,941
賃借料	6,633,072	5,022,111	1,610,961
リース料	188,060	145,325	42,735
業務委託費	5,476,598	6,180,394	△ 703,796
清掃費	196,861	271,082	△ 74,221
交際費	370,978	98,782	272,196
保険料	6,680	0	6,680
諸会費	162,880	156,880	6,000
租税公課	5,107,695	5,332,117	△ 224,422
支払手数料	395,298	27,726	367,572
特定資産償還差損	910,300	0	910,300
特定資産売却損	0	630,600	△ 630,600
投資有価証券評価損	0	0	0
雑費	235,703	59,390	176,313
管理費計	45,763,946	41,727,771	4,036,175
経常費用計	1,007,018,570	1,020,401,906	△ 13,383,336
当期経常増減額	74,382,994	74,850,101	△ 467,107
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
投資有価証券償還益	0	0	0
投資有価証券評価益	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	47,634	0	47,634
電話加入権除却損	10,000	0	10,000
投資有価証券償還損	17,000	25,000	△ 8,000
経常外費用計	74,634	25,000	49,634
当期経常外増減額	△ 74,634	△ 25,000	△ 49,634
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	74,308,360	74,825,101	△ 516,741
法人税、住民税及び事業税	134,100	140,000	△ 5,900
法人税等調整額	△ 802,800	1,218,800	△ 2,021,600
当期一般正味財産増減額	74,977,060	73,466,301	1,510,759
一般正味財産期首残高	327,141,721	253,675,420	73,466,301
一般正味財産期末残高	402,118,781	327,141,721	74,977,060
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用損益			
特定資産投資有価証券評価損益	116,779,400	71,698,000	45,081,400
②受取寄附金			
受取寄附金	8,574,569	48,607,479	△ 40,032,910
③一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	125,353,969	120,305,479	5,048,490
指定正味財産期首残高	1,217,426,491	1,097,121,012	120,305,479
指定正味財産期末残高	1,342,780,460	1,217,426,491	125,353,969
III 正味財産期末残高	1,744,899,241	1,544,568,212	200,331,029



**正味財産増減計算書内訳表**  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	実施事業等会計			ホーム会計	法人会計	内部取引相殺	合計
	社会厚生会計	診療所会計	小計				
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 特定資産運用益							
特定資産受取利息	0	0	0	0	26,991,987		26,991,987
特定資産売却益	0	0	0	0	0		0
特定資産運用益計	0	0	0	0	26,991,987	0	26,991,987
② 事業収益							
地域住民健診収益	0	0	0	0	0	0	0
老人ホーム事業収益							
入居預り金償却益	0	0	0	366,059,587	0		366,059,587
管理費収益	0	0	0	201,686,760	0		201,686,760
食費収益	0	0	0	98,824,541	0		98,824,541
料飲収益	0	0	0	11,418,196	0		11,418,196
売店収益	0	0	0	14,646,514	0		14,646,514
施設負担金収益	0	0	0	16,335,036	0		16,335,036
施設利用料収益	0	0	0	1,286,280	0		1,286,280
その他収入	0	0	0	0	0		0
老人ホーム事業収益計	0	0	0	710,256,914	0	0	710,256,914
医療事業収益							
医療外来収益	0	78,151,093	78,151,093	0	0		78,151,093
医療入院収益	0	2,720,553	2,720,553	0	0		2,720,553
医療室料収益	0	985,400	985,400	0	0		985,400
介護保険収益	0	4,555,770	4,555,770	0	0		4,555,770
医療その他収益	0	1,087,200	1,087,200	0	0		1,087,200
医療事業収益計	0	87,500,016	87,500,016	0	0	0	87,500,016
介護事業収益							
介護費預り金償却益	0	0	0	53,138,933	0		53,138,933
介護保険収益	0	0	0	132,611,620	0		132,611,620
介護事業収益計	0	0	0	185,750,553	0	0	185,750,553
事業収益計	0	87,500,016	87,500,016	896,007,467	0	0	983,507,483
③ 受取寄付金							
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0
④ 雑収益							
受取利息	0	3,502	3,502	7,108,146	10,512		7,122,160
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0		0
投資有価証券償還益	0	0	0	0	0		0
投資有価証券評価益	0	0	0	38,132,110	9,628,500		47,760,610
永代使用料収益	0	0	0	6,748,400	0		6,748,400
受取地代	0	0	0	1,200,000	0		1,200,000
雑収益	0	582,776	582,776	6,988,148	500,000		8,070,924
雑収益計	0	586,278	586,278	60,176,804	10,139,012	0	70,902,094
経常収益計	0	88,086,294	88,086,294	956,184,271	37,130,999	0	1,081,401,564
(2) 経常費用							
① 事業費							
役員報酬	3,092,604	0	3,092,604	0	0		3,092,604
給料手当	1,244,122	53,359,184	54,603,306	219,470,454	0		274,073,760
賞与引当金繰入	215,700	4,878,596	5,094,296	30,590,004	0		35,684,300
法定福利費	586,483	7,650,702	8,237,185	37,246,597	0		45,483,782
退職年金保険料	0	1,269,751	1,269,751	5,048,289	0		6,318,040
通勤費	0	471,809	471,809	5,038,731	0		5,510,540
福利厚生費	0	231,881	231,881	1,345,153	0		1,577,034
被服費	0	86,400	86,400	553,214	0		639,614
研修費	0	80,953	80,953	510,376	0		591,329
会議費	0	13,864	13,864	392,221	0		406,085
旅費交通費	0	50,785	50,785	102,759	0		153,544
通信運搬費	105,082	143,970	249,052	2,624,552	0		2,873,604
什器備品費	0	137,175	137,175	1,970,342	0		2,107,517
消耗品費	0	1,938,280	1,938,280	3,889,553	0		5,827,833
修繕費	0	140,926	140,926	36,317,295	0		36,458,221
印刷費	151,988	293,448	445,436	2,905,112	0		3,350,548
図書費	0	100,501	100,501	151,108	0		251,609
燃料費	0	0	0	11,878,893	0		11,878,893
電気料	45,960	1,635,400	1,681,360	21,425,983	0		23,107,343
水道料	2,385	39,608	41,993	7,406,816	0		7,448,809
保守費	0	235,439	235,439	745,201	0		980,640
賃借料	1,514,961	0	1,514,961	37,243,440	0		38,758,401
リース料	0	778,054	778,054	1,619,652	0		2,397,706
業務委託費	967,800	7,975,602	8,943,402	181,033,983	0		189,977,385
清掃費	59,135	59,409	118,544	1,807,327	0		1,925,871
保険料	0	97,193	97,193	2,192,835	0		2,290,028
交際費	0	61,752	61,752	335,265	0		397,017
諸会費	0	312,976	312,976	3,965,624	0		4,278,600
租税公課	0	0	0	34,083,200	0		34,083,200
自動車費	0	0	0	2,700,505	0		2,700,505
施設負担金	0	503,647	503,647	3,416,861	0		3,920,508
販売費	0	0	0	14,485,890	0		14,485,890
広告宣伝費	0	0	0	12,265,022	0		12,265,022
教養娯楽費	0	0	0	3,109,612	0		3,109,612
支払手数料	14,688	60,572	75,260	3,116,934	0		3,192,194
売店仕入費	0	0	0	13,106,223	0		13,106,223
医薬品仕入費	0	22,272,416	22,272,416	12,584,274	0		34,856,690

**正味財産増減計算書内訳表**  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	実施事業等会計			ホーム会計	法人会計	内部取引相殺	合計
	社会厚生会計	診療所会計	小計				
介護負担金	0	0	0	2,681,490	0		2,681,490
研究助成費	5,200,000	0	5,200,000	0	0		5,200,000
応募関係費	0	0	0	0	0		0
選考関係費	0	0	0	0	0		0
贈呈式関係費	0	0	0	0	0		0
成果報告関係費	0	0	0	0	0		0
現地開催費	0	0	0	0	0		0
出張関係費	0	0	0	0	0		0
委託手数料	0	0	0	0	0		0
建物減価償却費	0	1,689,255	1,689,255	58,383,810	0		60,073,065
リース資産減価償却費	0	315,599	315,599	10,907,697	0		11,223,296
建物付属設減価償却費	0	565,750	565,750	19,553,405	0		20,119,155
構築物減価償却費	0	132,253	132,253	4,570,910	0		4,703,163
車両運搬具減価償却費	0	81,429	81,429	2,814,346	0		2,895,775
什器備品減価償却費	0	436,716	436,716	15,093,731	0		15,530,447
電気通信施設減価償却費	0	1,038	1,038	35,869	0		36,907
ソフトウェア減価償却費	0	238,578	238,578	8,245,696	0		8,484,274
雑費	0	124,281	124,281	622,270	0		746,551
事業費計	13,200,908	108,465,192	121,666,100	839,588,524	0	0	961,254,624
②管理費							
役員報酬	0	0	0	4,638,906	1,546,302		6,185,208
給料手当	0	0	0	6,345,672	4,146,551		10,492,223
賞与引当金繰入	0	0	0	954,500	738,700		1,693,200
退職金	0	0	0	436,000	0		436,000
法定福利費	0	0	0	1,420,039	833,553		2,253,592
退職年金保険料	0	0	0	0	108,000		108,000
通勤費	0	0	0	337,953	337,954		675,907
福利厚生費	0	0	0	11,500	61,150		72,650
研修費	0	0	0	0	0		0
会議費	0	0	0	71,289	291,641		362,930
旅費交通費	0	0	0	471,329	13,081		484,410
通信運搬費	0	0	0	583,648	353,393		937,041
消耗品費	0	0	0	3,748	95,792		99,540
修繕費	0	0	0	0	1,806,840		1,806,840
印刷費	0	0	0	64,152	181,535		245,687
図書費	0	0	0	11,541	54,108		65,649
電気料	0	0	0	99,482	53,521		153,003
水道料	0	0	0	5,163	2,778		7,941
賃借料	0	0	0	3,279,137	3,353,935		6,633,072
リース料	0	0	0	6,620	181,440		188,060
業務委託費	0	0	0	3,292,544	2,184,054		5,476,598
清掃費	0	0	0	127,998	68,863		196,861
交際費	0	0	0	29,450	341,528		370,978
保険料	0	0	0	0	6,680		6,680
諸会費	0	0	0	5,000	157,880		162,880
租税公課	0	0	0	0	5,107,695		5,107,695
支払手数料	0	0	0	15,738	379,560		395,298
特定資産償還差損	0	0	0	0	910,300		910,300
特定資産売却損	0	0	0	0	0		0
雑費	0	0	0	4,356	231,347		235,703
管理費計	0	0	0	22,215,765	23,548,181	0	45,763,946
経常費用計	13,200,908	108,465,192	121,666,100	861,804,289	23,548,181	0	1,007,018,570
当期経常増減額	△ 13,200,908	△ 20,378,898	△ 33,579,806	94,379,982	13,582,818	0	74,382,994
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
什器備品除却損	0	0	0	29,612	18,022		47,634
電話加入権除却損	0	0	0	0	10,000		10,000
投資有価証券償還損	0	0	0	17,000	0		17,000
経常外費用計	0	0	0	46,612	28,022	0	74,634
当期経常外増減額	0	0	0	△ 46,612	△ 28,022	0	△ 74,634
他会計振替額	13,157,186	17,344,663	30,501,849	△ 26,219,052	△ 4,282,797	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 43,722	△ 3,034,235	△ 3,077,957	68,114,318	9,271,999	0	74,308,360
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	134,100	0		134,100
法人税等調整額	0	0	0	△ 802,800	0		△ 802,800
当期一般正味財産増減額	△ 43,722	△ 3,034,235	△ 3,077,957	68,783,018	9,271,999	0	74,977,060
一般正味財産期首残高	△ 171,978	115,247,303	115,075,325	△ 15,406,447	227,472,843	0	327,141,721
一般正味財産期末残高	△ 215,700	112,213,068	111,997,368	53,376,571	236,744,842	0	402,118,781
II 指定正味財産増減の部							
① 特定資産運用損益							
特定資産投資有価証券評価損益	0	0	0	0	116,779,400		116,779,400
② 受取寄附金							
受取寄附金	0	0	0	8,574,569	0		8,574,569
③ 一般正味財産への振替額							
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0		0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	8,574,569	116,779,400	0	125,353,969
指定正味財産期首残高	0	0	0	174,071,791	1,043,354,700	0	1,217,426,491
指定正味財産期末残高	0	0	0	182,646,360	1,160,134,100	0	1,342,780,460
III 正味財産期末残高	△ 215,700	112,213,068	111,997,368	236,022,931	1,396,878,942	0	1,744,899,241

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法

#### (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(売却価額は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

##### ①有形固定資産

建物の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定額法を採用している。

建物付属設備、構築物、車両運搬具及び什器備品の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定率法を採用している。

##### ②無形固定資産

ソフトウェアの減価償却は、定額法による方法を採用している。

##### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ①賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

##### ②退職給付引当金

職員の退職に備え、勤労者退職金共済機構の中小企業退職金共済制度を導入したため、退職給付引当金はない。

##### ③役員退職慰労引当金

役員(非常勤を含む)の退職慰労・功労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

#### (5) 消費税等の会計処理

消費税等の経理処理は、税込方式によっている。

#### (6) 税効果会計の適用について

税引前の当期一般正味財産増減額と法人税等の金額を合理的に期間対応させ、より適切な当期正味財産増減額を計上することを目的として税効果会計を適用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000			1,000,000,000	
役員退職慰労引当資産	500,000			500,000	
固定資産購入積立資産	184,945,359		573,214	184,372,145	
壺園購入積立資産	47,327,589		2,938,556	44,389,033	
建物	19,349,640		866,592	18,483,048	
建物付属設備	9,883,704		3,291,273	6,592,431	
車両運搬具	4,417,216	705,534		5,122,750	
什器備品	5	4,952,125		4,952,130	
構築物	19,280,510		771,220	18,509,290	
土地	15,400,000			15,400,000	
合計	1,301,104,023	5,657,659	8,440,855	1,298,320,827	

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000	(1,000,000,000)	(0)	(0)	
役員退職慰労引当資産	500,000	(0)	(0)	(500,000)	
固定資産購入積立資産	184,372,145	(184,372,145)	(0)	(0)	
壺園購入積立資産	44,389,033	(0)	(44,389,033)	(0)	
建物	18,483,048	(18,483,048)	0	(0)	
建物付属設備	6,592,431	(6,592,431)	(0)	(0)	
車両運搬具	5,122,750	(5,051,455)	(71,295)	(0)	
什器備品	4,952,130	(4,952,130)	(0)	(0)	
構築物	18,509,290	(0)	(18,509,290)	(0)	
土地	15,400,000	(0)	(15,400,000)	(0)	
合計	1,298,320,827	(1,219,451,209)	(78,369,618)	(500,000)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	備考
特定資産				
建物	25,488,000	7,004,952	18,483,048	
建物付属設備	24,990,000	18,397,569	6,592,431	
構築物	20,920,691	2,411,401	18,509,290	
車両運搬具	30,186,632	25,063,882	5,122,750	
什器備品	9,776,633	4,824,503	4,952,130	
小計	111,361,956	57,702,307	53,659,649	
その他固定資産				
建物	2,014,856,104	1,036,690,032	978,166,072	
建物付属設備	567,393,061	467,253,577	100,139,484	
構築物	263,201,639	216,251,824	46,949,815	
車両運搬具	8,101,163	6,621,760	1,479,403	
什器備品	313,386,541	248,518,301	64,868,240	
リース資産	88,966,896	54,587,605	34,379,291	
ソフトウェア	47,885,151	22,031,086	25,854,065	
電気通信施設利用権	738,150	166,081	572,069	
小計	3,304,528,705	2,052,120,266	1,252,408,439	
合計	3,415,890,661	2,109,822,573	1,306,068,088	

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額
(老人ホーム事業会計)	
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	0
合計	0

## 6. 税効果会計関係

### (1) 繰延税金資産の主な原因別の内訳

賞与引当金繰入否認	7,597,300
繰延税金資産(流動資産)	7,597,300
投資有価証券評価益否認	△ 12,653,104
繰越欠損金	15,229,908
入居者長期預り金	248,626,867
評価性引当額	△ 251,203,671
繰延税金資産(固定資産)	0
繰延税金資産合計	7,597,300

### (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

項 目	非収益事業	収益事業	合計
税引前当期一般正味財産増減額(A)	9,228,277	65,080,083	74,308,360
法人税、住民税及び事業税(B)	0	134,100	134,100
過年度法人税等(C)	0	0	0
法人税等調整額(D)	0	△ 802,800	△ 802,800
当期一般正味財産増減額(A)-(B)-(C)-(D)	9,228,277	65,748,783	74,977,060

### (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

項 目	率
法定実効税率	21.4
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3
一般正味財産への受取寄付金振替額	0.0
評価性引当額	△ 28.2
その他	7.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.1

## 7. リース取引関係

### (1) ファイナンス・リース取引

#### ① 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

その他固定資産

有料老人ホーム「ラビドール御宿」における、医療用コンピュータシステム、緊急通報システムである。

## 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記に記載しているため、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	27,765,000	37,377,500	27,765,000	0	37,377,500
役員退職慰労引当金	500,000	0	0	0	500,000

一般財団法人  
千代田健開発事業団